

# 子宮頸がん(HPV)ワクチン 当院で接種できます！！

定期接種対象者(小学6年生～高校1年生の女子)は**無料**  
それ以外の方は**50985円**(16995円/回×3回)です

ワクチンを全て公費でうつために**高校1年生の11月までに1回目**を開始しよう！

## 私の主張

WHOが日本を名指して警告するほどの異常事態であること、を、どれだけの日本人が気付いているのだろうか。

11月17日に佐賀県産婦人科医学会と佐賀産科婦人科学会による市民公開講座「子宮頸がん撲滅に向けて」が開かれ、医師でジャーナリストの村中璃子氏の講演を聞いた。

子宮頸がんは恐ろしい病気である。好発年齢が20～40代で、出産年齢のピークに発病し、命を脅かす事態になる。女性を象徴する臓器である子宮にメスを入れる現実、非常に残酷だ。日本だけで毎年、3千の

命と1万の子宮が失われている。

一方、子宮頸がんは病気の原因が特定され、その対処法が確立している珍しいがんでもある。原因はヒトパピローマウイルス(HPV)の感染で、9割以上の予防効果を持つH

## 子宮頸がんを撲滅しよう

佐賀市 吉原 麻里 35

PVワクチンも開発された。日本でも2013年4月に定期接種(対象年齢の人は無料で接種できる)となり、子宮頸がんは撲滅され、過去の病気となるはずだった。

定期接種の開始2カ月後、ワクチン接種後に神経の異常を思わせる症状が始まったという訴えを受け、政府は「積極的な接種勧奨の一時差し控え」を決めた。副反応とされた激しいけいれんの動画などは繰り返し報道された。

しかし、症状とワクチンの因果関係は証明されておらず、疫学調査で「ワクチンを接種した人の方が症状のある人の割合が少ない」ことが分かったが、ほとんど報道されていない。そして政府は接種勧奨の再開を保留し続けて現在に至る。

佐賀新聞 2019年11月23日

## 私の主張

10月1日に世界初の「HPVワクチンは子宮頸がんを防ぐ」というデータが発表された。

「17歳までの接種者の88%、17歳から30歳までの接種者の53%で浸潤がん減少」という圧倒的なワクチンの効果を示した。今まで「HPVワクチンは前がん病変を防ぐ証拠はあるががんを防ぐ証拠はない」という理由で接種をちゅうちよする人がいたが、このニュースで接種を判断する人も少なくないただろう。

子宮頸がんは、好発年齢が20～40代で結婚や妊娠の適齢期に発病することから「マザーキラー」とも呼ばれる。日本だけで毎年、3千の命と1万

の子宮が失われている。一方、子宮頸がんは病気の原因が特定され、その対処法が確立している珍しいがんでもある。原因はヒトパピローマウイルス(HPV)の感染で、9割以上の予防効果を持つHPVワクチンが開発された。日本でも2013年4月

## ワクチンががんを防ぐ

佐賀市 吉原 麻里 36

に4価のワクチンが定期接種(対象年齢の人は無料で接種できる)となり、2020年7月にさらに効果のある9価のワクチンが承認された。

しかし定期接種の開始2カ月後、ワクチン接種後に神経の異常を思わせる症状が始まったという訴えを受け、政府は「積極的な接種勧奨の一時

差し控え」を決めた。後に症状とワクチンの因果関係を科学的・疫学的に示した報告がないこと、疫学調査で「ワクチンを接種した人の方が症状を起こしにくい」ことがわかったが、ほとんど報道されていない。そして政府は接種勧奨の再開を保留し

続けて現在に至る。そのため今でもワクチンに対する根強い恐怖感があり、接種率はわずか0.3%である。2016年7月、日本政府は世界初「子宮頸がんワクチンによるという被害に対する国家賠償請求訴訟」を起こされた。思春期特有の身体表現性障害の可能性が否定できない中

ながら、接種率はわずか0.3%にとどまり、予防効果はほとんど発揮できていない。世界で子宮頸がん死亡率が下がる中、日本では上昇し続けている。WHOは何度も警鐘を鳴らし、医学会も何度も声明を出しているが、政府はまだ接種勧奨を再開しない。

国の決定を待つていられないと、自治体などは独自の対応に乗り出している。佐賀県は子宮がんの死亡率が全国ワーストという深刻な事態を受け、30歳から44歳の県内女性を対象にHPV検査費を無料化している。HPVワクチンで感染自体を予防し、検診で早期発見に努め、佐賀県から子宮頸がんを撲滅しよう。

で、原因をワクチンだと考えた一部の医師によって、危険な治療が行われている少女たちのことを思うとやせせない。

新型コロナウイルスのワクチンの研究が連日報道され、季節柄インフルエンザワクチンへの関心も高まっている。感染症は怖い、がんも怖い。がんを防ぐ効果のあるワクチンがあり、対象者は無料で受けられるというのに、今の10代のほとんどはHPVワクチンの存在すら知らないという。HPVワクチンを3回接種するには半年間を要する。高校1年生までの女子は無料で受けられる。佐賀県は子宮頸がんでの死亡率が全国ワーストだ。ワクチン接種率を上げて、検診を受けて、佐賀県から子宮頸がんを撲滅しよう。(医師)

佐賀新聞 2020年10月14日

要予約 月・水・金曜日 担当 吉原 麻里

佐賀リハビリテーション病院 TEL 0952-25-0231